

記者会見連絡票

所属部署（さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館－）

タイトル
松尾敏男展～大観・南風・寛方の系譜を継ぐ～について
概要（発表内容を簡単に記入してください。）
<p>松尾敏男（1926-2016）は日本画壇の重鎮として多くの作品を生み出しました。特に牡丹を描いた作品は有名で、「牡丹の名手」として人気を博しました。松尾は日本美術院の前理事長として日本画壇を牽引し、芸術文化活動の功績が認められ、2012年に文化勲章を受章しています。</p> <p>松尾の師匠は日光東照宮の「鳴龍」を描いた堅山南風であり、また南風の師は巨匠・横山大観であることから、彼らの精神を受継ぐ松尾氏はまさに、日本画の王道を生きた画家といえるでしょう。</p> <p>今回、さくら市ミュージアム開館25周年を記念して、日本画家・松尾芸術の真髄に迫る展示をいたします。松尾の院展初出品作品から、絶筆となった作品に至るまで約50点の作品を一堂に紹介します。</p> <p>【会 期】 平成30年3月24日（土）～5月6日（日）</p> <p>【主 催】 さくら市ミュージアム - 荒井寛方記念館 -</p> <p>【共 催】 (株)下野新聞社</p> <p>【企画協力】 産経新聞社</p> <p>【協 力】 一般財団法人松尾財団、公益財団法人日本美術院 さくら市ミュージアム友の会、寛方・タゴール会</p> <p>【観 覧 料】 一般600円（500円）、高校・大学生400円（300円）、 小中学生、200（100）円</p> <p>※（ ）内は20名以上の団体料金</p> <p>※さくら市民は半額、さくら市内小・中学生は無料。</p> <p>※障がい者手帳をお持ちの方（同伴の介護者）の方は半額</p> <p>【休 館 日】 毎週月曜日、第三火曜日、5月1日（火）</p> <p>※ゴールデンウィーク中（4月28日～5月6日）は5月1日をのぞき開館</p> <p>【開館時間】 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）</p>
内容（発表内容のポイントを記入してください。別紙資料でも可能。）
<p>◇みどころ</p> <p>前日本美術院理事長・松尾敏男氏の大規模な展覧会です。松尾敏男は美しい花々や、人物の内面に迫る肖像画など、多岐に渡るモチーフで作品を生み出すことでも有名です。このたびの展覧会は得意の牡丹をはじめ、インド、中国、ヨーロッパなどの風景、肖像画、抽象的な作品まですべてがドラマに満ちた作品を紹介します。</p>

また松尾氏は歌舞伎や、相撲など日本文化を担う人々との交流がありました。今回のみどころのひとつとして、相撲通だった松尾が力士白鵬に描いた化粧まわしの原画や、元大関・栃東関の化粧まわしの原画と化粧まわしを特別展示いたします。

また、歌舞伎界との縁も深かった松尾は歌舞伎座の緞帳を手掛けており、緞帳の原画も特別出品となっています。

本展は多くの芸能関係者の推薦があり、映画監督の山田洋次氏からも以下のようなコメントが寄せられています

「画家、映画評論家、体操選手、どの道に進んでも成功したであろう天才、松尾敏男さん。

アヴァンギャルドな発想と 軽やかな仕事への取り組み方は 日本画壇の老巨匠という

イメージを覆した」

多彩な才能で多くの人に愛されまた畏敬の念で語られる松尾氏の展覧会をぜひご期待ください。

また、松尾氏の師匠堅山南風はさくら市の荒井寛方と友人であったことで、このたび関連の特別展示をします。横山大観、堅山南風、荒井寛方の作品も見逃せません。

◇会期中のイベントについて

3月24日（土）開幕記念式 午前11時～11時30分

オープニングトーク 午前11時30分～12時

スペシャルコンサート 午後1時30分～2時30分

特別鑑賞会 （すべて土曜日 午後2時から）

3月31日 当館学芸員

4月 7日 松本高明氏（日本美術院同人）

14日 齋藤満栄氏（日本美術院同人）

21日 荒井孝氏（日本美術院特待 文星芸術大学特任教授）

28日 宮北千織氏（日本美術院同人）

5月3日（木・祝日）午後2時～3時

田井中将希朗読

「松尾敏男 珠玉のエッセイ」

朗読 田井中将希 ピアノ 松尾由佳

4月29日（日）午後2時～3時

開館記念の日・開館25周年イベント

大町朋子ピアノリサイタル

※添付のチラシを参照ください

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先（所属、担当者名、電話番号）

さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館－

TEL 028-682-7123

※ 1案件ごと1枚作成してください。

M A T S U O

T O S H I O

さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館- 開館25周年記念

松尾敏男展

～大観・南風・寛方の系譜を継ぐ～

A R e t r o s p e c t i v e

2018年3月24日〔土〕-5月6日〔日〕 さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-

■開館時間=午前9時-午後5時(入館は午後4時30分までに) ■休館日=月曜日、第三火曜日、5月1日(火) ※ゴールデンウィーク中(4月28日-5月6日)は5月1日をのぞき開館

主催=さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館- 企画協力=産経新聞社 共催=下野新聞社
協力=一般財団法人 松尾財団、公益財団法人 日本美術院、さくら市ミュージアム友の会、寛方・タゴール会

MATSUO TOSHIO — A Retrospective

松尾敏男(1926-2016)は日本画壇の重鎮として多くの名作を生み出しました。日本美術院を主要舞台として、生と死をテーマに斬新な作品を描いた1960年代。これを機に氏の描く作品は大きな反響を呼びました。一方で、晩年の瑞々しい牡丹の作品に代表される高い技術と崇高な精神性は他の追随を許すことなく「牡丹の名手」として日本画壇にその名を刻んでいます。松尾氏の師は堅山南風(1887-1980)ですが、さらに南風の師匠は横山大観(1868-1958)であり、彼らの精神を受継ぐ松尾氏はまさに日本画の王道を生きた画家といえるのではないのでしょうか。

このたびは、さくら市ミュージアム開館25周年を記念して日本画家・松尾芸術の真髓に迫る展覧会を開催いたします。また、氏の作品を主軸に、横山大観、堅山南風、そして当市出身で南風の友人・院展同人の荒井寛方を同時に展示し、それぞれの関連性と時代を紹介します。

松尾敏男さん 推薦文



画家、映画評論家、体操選手、どの道に進んでも成功したであろう天才、松尾敏男さん。アヴァンギャルドな発想と軽やかな仕事への取り組み方は日本画壇の老巨匠というイメージを覆した。

山田洋次



①



②



③



④



⑤



⑥

- ①《鳥碑》
1968年 長崎県美術館
- ②《南風先生像》
1980年 熊本県立美術館
- ③《サルナト想》
1978年 日本芸術院
- ④《玄峽想》
2015年
- ⑤《長崎旅情》
2014年 長崎県美術館
- ⑥《銅車馬想》
1998年 衆議院

表面《翠苑》(部分)
2001年 衆議院
背景《朝つゆ》(部分)
2001年

料金 一般600(500)円、高校・大学生400(300)円、小・中学生200(100)円

●()内は20名以上の団体料金 ●さくら市民は半額、さくら市内小・中学生は無料 ●障がい者手帳をお持ちの方とその介護者は半額
※割引の併用はできません。

開幕記念式典

3月24日(土)午前11時—11時30分
場所=展示会場(展示ホール)
※申し込み不要 観覧料でご参加ください。

オープニングトーク

3月24日(土)開幕式終了後午前11時30分—12時
※知られざる作品誕生のとおきのお話
場所=展示会場
講演者: 松尾由佳氏(松尾財団理事長)
那波多目功一氏(日本美術院同人・代表理事)

コンサート

3月24日(土)午後1時30分—2時30分
場所=展示会場(展示ホール)
出演: オペラユニット LEGEND
スーパーユニット LEGENDの登場!
※観覧料でご参加ください。



さくら市ミュージアム

特別鑑賞会

3月31日(土)、4月7日(土)、14日(土)、21日(土)、28日(土)
※いずれも午後2時から3時、観覧料でご参加ください。
3月31日(土) 担当: 当館学芸員
4月7日(土) 講師: 松本高明氏(日本美術院同人)
14日(土) 講師: 齋藤満栄氏(日本美術院同人)
21日(土) 講師: 荒井孝氏(日本美術院特待 文星芸術大学特任教授)
28日(土) 講師: 宮北千織氏(日本美術院同人 文星芸術大学教授)

開館記念の日

開館25周年記念イベント
大町朋子ピアノリサイタル
4月29日(日)午後2時—3時
場所=展示会場(展示ホール)
※当日は終日無料開放

田井中将希朗読

「松尾敏男珠玉のエッセイ」
5月3日(木・祝日)午後2時から3時 ※観覧料でご参加ください。
場所=展示会場(展示ホール)
朗読: 田井中将希(俳優) ピアノ: 松尾由佳



交通のご案内

●自動車をご利用の場合
東北自動車道宇都宮インターチェンジより車で30分。同、矢板インターチェンジより車で20分。同、上河内スマートインターチェンジ(ETC専用)より車で20分。
●鉄道をご利用の場合
JR宇都宮駅から東北本線(宇都宮線)にて3駅目、JR氏家駅下車。JR氏家駅からタクシー乗車(約5分)。

さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-
〒329-1311 栃木県さくら市氏家1297
電話028-682-7123 FAX 028-682-7854

検索

URL=<http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/site/sakura-museum>